

(様式第 10)

関 枚 発 第 14X01 号  
平成 26 年 10 月 1 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 大阪府枚方市新町 2 丁目 5 番 1 号  
学校法人 関西医科大学  
理事長 山下 敏夫 (印)

関西医科大学附属枚方病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒573-1010 大阪府枚方市新町2丁目5番1号
氏 名	学校法人 関西医科大学 理事長 山下 敏夫

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

関西医科大学附属枚方病院
--------------

3 所在の場所

〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目3番1号	電話 (072) 804-0101
---------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
②医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科 2 消化器内科 3 循環器内科 4 腎臓内科 5 神経内科 6 内分泌内科 7代謝内科	
8 感染症内科 9リウマチ科 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1 呼吸器外科 2 消化器外科 3 乳腺外科 4 心臓血管外科 5 小児外科 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8 産科 9 婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
---

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 歯科・口腔外科 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 血液・腫瘍内科 2 心療内科 3 形成外科 4 頭頸部外科 5 肝臓外科 6 膵臓外科 7胆のう外科 8リハビリテーション科 9 病理診断科 10 臨床検査科 11 血管外科 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
---

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
床	床	床	床	750 床	750 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	307 人	113 人	340.1人	看 護 補 助 者	14 人	診療エックス線技師	0 人
歯 科 医 師	2 人	1 人	2.4 人	理 学 療 法 士	9 人	臨床検査技師	65.4 人
薬 剤 師	53 人	0 人	53 人	作 業 療 法 士	4 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0 人	視 能 訓 練 士	6.8 人	その他	0 人
助 産 師	37 人	0 人	37 人	義 肢 装 具 士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	756 人	32 人	779.3 人	臨 床 工 学 技 士	20 人	医療社会事業従事者	6 人
准 看 護 師	1 人	0 人	1 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	6 人
歯 科 衛 生 士	2 人	0 人	2 人	歯 科 技 工 士	0 人	事 務 職 員	66 人
管 理 栄 養 士	5 人	1 人	5.84 人	診 療 放 射 線 技 師	37.2 人	その他の職員	6 人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	18 人	眼 科 専 門 医	12 人
外 科 専 門 医	32 人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	10 人
精 神 科 専 門 医	2 人	放 射 線 科 専 門 医	14 人
小 児 科 専 門 医	16 人	脳 神 経 外 科 専 門 医	7 人
皮 膚 科 専 門 医	5 人	整 形 外 科 専 門 医	11 人
泌 尿 器 科 専 門 医	9 人	麻 酔 科 専 門 医	11 人
産 婦 人 科 専 門 医	10 人	救 急 科 専 門 医	3 人
		合 計	160 人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	637.3 人	0 人	637.3 人
1日当たり平均外来患者数	1851.1 人	14.1 人	1859.2 人
1日当たり平均調剤数			842.2 剤
必要医師数			173 人
必要歯科医師数			1 人
必要薬剤師数			22 人
必要(准)看護師数			389 人

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備	概 要		
集中治療室	891.70m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）耐火建築物	病床数	53床	心電計	④・無
			人工呼吸装置	④・無	心細動除去装置	④・無
			その他の救急蘇生装置	④・無	ペースメーカー	④・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 151.5 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	14床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 53 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名 病棟業務課					
化学検査室	405.3 m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) AU5800, XE-2100, アーキテクト, Eモジュール, コアグレックス			
細菌検査室	112.9 m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) 安全キャビネット、バクテアラート3D、BDフェニックス、ライトサイクラー			
病理検査室	299.9 m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) カセット印字機、スライド印字機、パラフィン液透機、免疫染色機			
病理解剖室	118.9 m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) パラフィン液透機、包埋センター、ドラフトチャンバー			
研究室	8193.84m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) 顕微鏡、冷却遠心機、CO2インキュベーター			
講義室	363.40 m <sup>2</sup>	〃	室数 2 室	収容定員 210人		
図書室	1135.16m <sup>2</sup>	〃	室数 1 室	蔵書数 52,000冊程度		

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	73.3%	逆紹介率	52.6%
算出根拠	A: 紹介患者の数	22,075人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	16,567人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,031人	
	D: 初診の患者の数	31,522人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	118人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	63人	・広範脊柱管狭窄症	5人
・重症筋無力症	142人	・原発性胆汁性肝硬変	131人
・全身性エリテマトーデス	515人	・重症急性膵炎	25人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	96人
・再生不良性貧血	57人	・混合性結合組織病	52人
・サルコイドーシス	180人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	43人	・特発性間質性肺炎	12人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	274人	・網膜色素変性症	121人
・特発性血小板減少性紫斑病	228人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	22人	・肺動脈性肺高血圧症	36人
・潰瘍性大腸炎	196人	・神経線維腫症	67人
・大動脈炎症候群	23人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	71人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	63人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4人
・脊髄小脳変性症	112人	・ライソゾーム病	5人
・クローン病	89人	・副腎白質ジストロフィー	3人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	5人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	11人
・悪性関節リウマチ	24人	・脊髄性筋委縮症	6人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	600人	・球脊髄性筋委縮症	4人
・アミロイドーシス	22人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	34人
・後縦靭帯骨化症	90人	・肥大型心筋症	94人
・ハンチントン病	6人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	14人	・ミトコンドリア病	7人
・ウェゲナー肉芽腫症	9人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	65人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	60人	・黄色靭帯骨化症	9人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	41人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科外来診療環境体制加算	・データ提出加算2
・特定機能病院入院基本料(7対1)	・救命救急入院料1・4
・臨床研修病院入院診療加算	・特定集中治療室管理料2・4
・救急医療管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(母体胎児・新生児)
・超急性期脳卒中加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・妊産婦緊急搬送入院加算	・小児入院医療管理料2
・診療録管理体制加算2	・
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1・2	・
・緩和ケア診療加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊婦管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・新生児特定集中治療室退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・救急搬送患者地域連携受入加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・病棟薬剤業務実施加算	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	・皮下連続式グルコース測定
・高度難聴指導管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・糖尿病合併症管理料	・神経学的検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・補聴器適合検査
・がん患者指導管理料	・ロービジョン検査判断料
・外来緩和ケア管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・移植後患者指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
・外来放射線照射診療料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・ニコチン依存症管理料	・画像診断管理加算2
・地域連携診療計画管理料	・ポジトロン断層撮影
・がん治療連携計画策定料	・CT撮影及びMRI撮影
・がん治療連携管理料	・冠動脈CT撮影加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・大腸CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料1・2	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・歯科治療総合医療管理料	・外来化学療法加算1
・持続血糖測定器加算	・無菌製剤処理料
・造血器腫瘍遺伝子検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・検体検査管理加算Ⅰ・Ⅳ	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・植込型心電図検査	・がん患者リハビリテーション料
・時間内歩行試験	・歯科口腔リハビリテーション料2
・胎児心エコー法	・認知療法・認知行動療法2
・ヘッドアップティルト試験	・処置の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・経皮的動脈遮断術
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・内視鏡下下枝静脈瘤不全穿通枝切離術
・透析液水質確保加算	・ダメージコントロール手術
・一酸化窒素吸入療法	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・CAD/CAM冠	・体外衝撃波胆石破碎術
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・腹腔鏡下肝切除術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・生体部分肝移植術
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・体外衝撃波膝石破碎術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・網膜再建術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・同種死体腎移植術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・生体腎移植術
・上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	・膀胱水圧拡張術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・経皮的冠動脈形成術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・経皮的冠動脈ステント留置術	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・手術の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	・輸血管管理料 I
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・輸血適正使用加算
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・自己生体組織接着剤作成術





## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
トラスツマブ耐性に関する分子機構の解析と新規治療法開発のための基礎的研究	杉江 知治	外科	1,560,000	補 委	日本学術振興会 科研費
喘息におけるステロイド抵抗性メカニズムの解明と臨床応用への挑戦	小林 良樹	鼻咽喉科・頭頸部外科	2,080,000	補 委	日本学術振興会 科研費
心原性院外心肺停止症例に対する集学的治療効果に関する研究	早川 航一	救急医学	650,000	補 委	日本学術振興会 科研費
低酸素センサー調節による誘導代謝プログラミングによる腎不全治療戦略の策定	廣田 喜一	麻酔科学	1,170,000	補 委	日本学術振興会 科研費
臓器・組織壁応力を考慮した新しい循環管理法の開発に関する研究	鎌方 安行	救急医学	2,210,000	補 委	日本学術振興会 科研費
機能性人工真皮の開発及び難治性皮膚疾患への応用	森本 尚樹	形成外科学	520,000	補 委	日本学術振興会 科研費
オントロジ技術を用いた内視鏡診断学習システムの開発	仲野 俊成	医療情報部	130,000	補 委	日本学術振興会 科研費
PRO-CTCAE日本語版の開発と普及に関する研究	山本 大悟	外科学	195,000	補 委	日本学術振興会 科研費
小児の聴覚処理障害に対する評価と教育臨床心理的支援	土井 直	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	104,000	補 委	日本学術振興会 科研費
肺胞低酸素が低酸素誘導性遺伝子発現変化を通じて肺に及ぼす影響の細胞生物学的検討	廣田 喜一	麻酔科学	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科研費
我が国における金属摩耗粉による人工股関節置換術合併症の調査研究	飯田 寛和	整形外科	6,000,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
腎・泌尿器系の希少難治性疾患群に関する調査研究	塚口 裕康	内科学第二	4,000,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
難治性隣疾患に関する調査研究	岡崎 和一	内科学第三	1,000,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金

小計  
13

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること。  
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を入力すること。  
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」と記入の上で補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	岡崎 和一	内科学第三	1,000,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
IgG4関連疾患に関する調査研究	岡崎 和一	内科学第三	6,000,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
小児期からの消化器系希少難治性疾患群の包括的調査研究とシームレスなガイドライン作成	濱田 吉則	外科	450,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	高橋 寛二	眼科	2,000,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
未治療原発不明癌に対するDNAチップを用いた原発巣推定に基づく治療効果の意義を問う無作為化第Ⅱ相試験	倉田 宝保	内科学第一	600,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
保健指導の導入による脳卒中・心筋梗塞の再発予防効果に関する研究	木村 穰	健康科学	700,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
ウイルス性肝疾患患者の食事・運動療法とアウトカム評価に関する研究	海堀 昌樹	外科	200,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
有効なIVR手技の開発と標準化のための多施設共同研究	谷川 昇	放射線科	1,000,000	補 委	厚生労働省がん研究 開発費
切除不能局所進行膵がんに対する標準的化学放射線療法の確立に関する研究	柳本 泰明	外科	196,060	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
進行非小細胞肺癌を対象としたエルロチニブとYM155の分子標的治療薬併用第Ⅰ相試験	倉田 宝保	内科学第一	1,820,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
JFMC38-0901「pTNM stageⅡ直腸癌症例に対する手術単独療法及びUFT/PSK療法のランダム化第Ⅲ相比較臨床試験」	徳原 克治	外科学	5,000	補 委	財団法人 がん集学的治療研究 財団研究助成金
Stage 3(Dukes' C)結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのカペシタビンの指摘投与期間に関するランダム化第3相比較臨床試験	岩本 慈能	外科学	40,000	補 委	財団法人 がん集学的治療研究 財団研究助成金
切除不能進行・再発胃癌症例に対するTS-1の連日投与法および隔日投与法のランダム化第2相試験(JFMC43-1003)	井上 健太郎	外科学	5,000	補 委	財団法人 がん集学的治療研究 財団研究助成金

小計  
13

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」と記入の上で補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
樹状細胞と血小板によるアレルギーおよび免疫誘導に関する研究	伊藤 量基	内科学第一	2,000,000	補 委 一般財団法人 藤井節郎記念 大阪基礎医学研究奨励会 平成25年度研究助成金
癌化学療法時の悪心嘔吐観察研究	里井 壯平	外科学	28,000	補 委 財団法人パブリックヘルスリサーチセンター 研究助成金
切除不能進行肺癌(局所進行又は転移性)に対するTS-1通常投与方法とTS-1隔日投与方法のランダム化第Ⅱ相試験(肺癌隔日投与方法)	神島 宏	内科学第二	220,000	補 委 財団法人パブリックヘルスリサーチセンター 研究助成金
HER2陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法におけるトラスツマブ単剤と化学療法併用に関するランダム化比較試験	山本 大悟	外科学	60,000	補 委 財団法人パブリックヘルスリサーチセンター 研究助成金
腎性貧血を合併した慢性心不全患者に対するエポエチンベータベゴル投与の有効性の検討	真鍋 憲市	内科学第二	300,000	補 委 公益財団法人 日本腎臓財団 平成25年度研究助成
脂肪幹細胞と自己血由来増殖因子を用いた皮膚・軟部組織再生とその作用機序の解明	覚道 奈津子	形成外科学	2,000,000	補 委 公益財団法人 内藤記念科学振興財団 第8回女性研究者研究助成金
重症頭部外傷に対する超早期能低温療法の有効性に関する研究	早川 航一	救急医学科	1,000,000	補 委 一般社団法人 日本損害保険協会 2013年度交通事故医療に関する一般研究助成
脳損傷患者に対する経頭蓋直流電気刺激療法が急性期リハビリテーション治療に及ぼす効果に関する研究	長谷 公隆	整形外科	1,000,000	補 委 一般社団法人 日本損害保険協会 2013年度交通事故医療に関する一般研究助成
子宮内環境が胎児遺伝子に及ぼすエピジェネティックな影響の解明	平林 雅人	小児科学	500,000	補 委 公益財団法人 森永奉仕会 平成24年度研究奨励金
限局性前立腺癌に対するホルモン療法の有効性に関する観察研究	松田 公志	腎泌尿器外科学	320,000	補 委 NPO法人J-CaP研究会 更新研究費
日本人の心房細動患者における心血管イベント発症頻度とその予測因子に関する検討	宮坂 陽子	内科学第二	1,000,000	補 委 公益財団法人 聖ルカ・ライフサイエンス研究所 平成26年度研究助成金
ヒト肝細胞がんに対する増殖型遺伝子組換えウイルスを用いた新治療法の開発研究	海堀 昌樹	外科	580,000	補 委 国立大学法人東京大学医科学研究所 平成26年度共同研究
XVIVO systemを用いた肺移植後・閉塞室細気管支炎の予防的治療戦略の構築	齊藤 朋人	胸部心臓血管外科学	900,000	補 委 日本学術振興会 科研費

小計  
13

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」と記入の上で補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
インスリンシグナルによる心機能調節機構の解明	塩島 一郎	内科学第二	5,590,000	補 委	日本学術振興会 科研費
細胞成長因子保持型人工真皮を用いた細胞治療および細胞誘導治療	森本 尚樹	形成外科学	3,510,000	補 委	日本学術振興会 科研費
血管内皮細胞由来マイクロパーティクルによるDIC病態早期診断法の研究	野村 昌作	内科学第一	1,040,000	補 委	日本学術振興会 科研費
手術後創部痛の完全克服を目的とした埋め込み式持続鎮痛ゲルの開発	海堀 昌樹	外科学	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科研費
自己免疫性膵炎の発症機序とIgG4産生制御に関する免疫学的研究	岡崎 和一	内科学第三	1,040,000	補 委	日本学術振興会 科研費
肥満による左室拡張能と血管内皮機能への影響、およびその運動療法の効果に関する検討	宮坂 陽子	内科学第二	520,000	補 委	日本学術振興会 科研費
細胞外基質Fibulin-1の解析による着床障害の病態解明	岡田 英孝	産科学・婦人科学	1,560,000	補 委	日本学術振興会 科研費
低酸素・内分泌環境における子宮内膜の血管新生因子の発現調整	神崎 秀陽	産科学・婦人科学	1,430,000	補 委	日本学術振興会 科研費
EGFとIPCによる小腸移植時における虚血再還流障害の抑制	濱田 吉則	外科学	910,000	補 委	日本学術振興会 科研費
筋萎縮性側索硬化症におけるTDP-43陽性封入体の部位別神経変性機序の検討	中村 正孝	神経内科学	650,000	補 委	日本学術振興会 科研費
サルコイドーシスにおけるB細胞およびBAFFの異常と単球の関与	植田 郁子	皮膚科学	2,470,000	補 委	日本学術振興会 科研費
IFN- $\alpha$ と放射線治療効果増強に向けたBID分子標的療法の検討	津野 隆哉	放射線科学	1,170,000	補 委	日本学術振興会 科研費
CT透視下穿刺支援デバイスシステムの開発	中谷 幸	放射線科学	1,040,000	補 委	日本学術振興会 科研費

小計  
13

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」と記入の上で補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
1型自己免疫性膵炎におけるIgG4産生機序と自然免疫の役割	内田 一茂	内科学第三	1,690,000	補 委	日本学術振興会 科研費
線溶系物質による樹状細胞機能の制御: 炎症性疾患に向けた新たな治療コンセプトの提案	伊藤 量基	内科学第一	1,820,000	補 委	日本学術振興会 科研費
胎児の栄養環境と代謝エピジェネティクス制御	高屋 淳二	小児科学	1,430,000	補 委	日本学術振興会 科研費
トラスツマブ耐性に関する分子機構の解析と新規治療法開発のための基礎的研究	杉江 知治	外科学	1,560,000	補 委	日本学術振興会 科研費
増殖型遺伝子組換えウイルスを用いた根治不能肝腫瘍に対する新治療法の開発研究	権 雅憲	外科学	1,690,000	補 委	日本学術振興会 科研費
電気穿孔法によるサイトカインの経皮、経潰瘍底導入効果についての実験的研究	楠本 健司	形成外科学	1,560,000	補 委	日本学術振興会 科研費
次世代技術を用いた腎糸球体ポドサイトと末梢ニューロンを傷害する疾患遺伝子探査	塚口 裕康	内科学第二	1,820,000	補 委	日本学術振興会 科研費
低酸素センサー調節による誘導代謝リプログラミングによる腎不全治療戦略の策定	廣田 喜一	麻酔科学	1,170,000	補 委	日本学術振興会 科研費
腫瘍細胞を含む切除組織からの脱細胞化および再移植方法の検討	森本 尚樹	形成外科学	1,820,000	補 委	日本学術振興会 科研費
喘息におけるステロイド抵抗性メカニズムの解明と臨床応用への挑戦	小林 良樹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2,080,000	補 委	日本学術振興会 科研費
質量顕微鏡を用いた中枢神経系での内因性ジギタリスの産生分泌機構の解明	吉賀 正亨	臨床検査医学科	2,210,000	補 委	日本学術振興会 科研費
原発性胆汁性肝硬変症の新たなバイオマーカーと免疫療法の検討	吉田 勝紀	内科学第三	1,560,000	補 委	日本学術振興会 科研費
心原性院外心肺停止症例に対する集学的治療効果に関する研究	早川 航一	救急医学	650,000	補 委	日本学術振興会 科研費

小計  
13

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」と記入の上で補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
幹細胞を用いた脂肪組織再生と血管新生における分子機構の解明	覚道 奈津子	形成外科学	1,170,000	補 委	日本学術振興会 科研費
多能性ヒトMesoangioblastのoriginと効果的心筋分化誘導法の解明	岩崎 真佳	内科学第二	2,470,000	補 委	日本学術振興会 科研費
pSmad2/3L-Thrに着目した消化管上皮幹細胞・癌化・再生機構の検討	福井 寿朗	内科学第三	1,690,000	補 委	日本学術振興会 科研費
微小変化型ネフローゼ症候群における標的療法の開発	金子 一成	小児科学	1,560,000	補 委	日本学術振興会 科研費
マウス発がんモデルにおける抗腫瘍剤誘導アポトーシスと腫瘍糖代謝能のイメージング	河 相吉	放射線科学	2,470,000	補 委	日本学術振興会 科研費
大量ナノバブルにより増強したキャビテーション効果の医療利用:血栓溶解効果での評価	狩谷 秀治	放射線科学	1,170,000	補 委	日本学術振興会 科研費
肝細胞癌に対するRI標識リポドールを用いた新しい放射線塞栓療法の開発	谷川 昇	放射線科学	1,950,000	補 委	日本学術振興会 科研費
プロポフォール・デクスメトミディンの5-リポキシゲナーゼ依存性免疫修飾の研究	稲田 武文	麻酔科学	1,690,000	補 委	日本学術振興会 科研費
生体内酸素代謝がHIF-1を介して細胞間接着装置の機能調節に与える影響の探究	西 憲一郎	麻酔科学	2,470,000	補 委	日本学術振興会 科研費
磁場発生装置を使用した軟性尿管鏡位置計測システム及びナビゲーションシステムの開発	松田 公志	腎泌尿器外科学	4,290,000	補 委	日本学術振興会 科研費
新生血管阻害剤を付加したセラミック微小球による新しい加齢黄斑変性に対する治療	三木 克朗	眼科学	1,950,000	補 委	日本学術振興会 科研費
臓器・組織壁応力を考慮した新しい循環管理法の開発に関する研究	鎌方 安行	救急医学	2,210,000	補 委	日本学術振興会 科研費
重症紫斑病性腎炎(HSPN)に対するシクロスポリンの有効性とその機序に関する検討	木全 貴久	小児科学	780,000	補 委	日本学術振興会 科研費

小計  
13

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」と記入の上で補助元又は委託元を記入すること。



## 2. 論文発表等の実績

番号	雑誌名	題名	発表者氏名	発表者の所属
1	Journal of Autoimmunity44:13-20 2013/08	Differential targeting of IL-2 and T cell receptor signaling pathways selectively expands regulatory T cells while inhibiting conventional T cells	Atsushi Satake	血液呼吸器膠原病感染症内科
2	The Journal of Rheumatology40(7):1074-1081 2013/07	Serum Interleukin 6 Before and After Therapy with Tocilizumab Is a Principal Biomarker in Patients with Rheumatoid Arthritis.	Shimamoto K	血液呼吸器膠原病感染症内科
3	Oncology letters6(3):676-680 2013/09	Primary intrahepatic malignant mesothelioma with multiple lymphadenopathies due to non-tuberculous mycobacteria: A case report and review of the literature.	Inagaki N	血液呼吸器膠原病感染症内科
4	Oncology letters5(4):1123-1128 2013/04	Nail alterations as a surrogate marker for the efficacy of low-dose metronomic chemotherapy.	Kibata K	血液呼吸器膠原病感染症内科
5	Lung cancer83(1):97-101 2014/01	Prognostic impact of the mean platelet volume/platelet count ratio in terms of survival in advanced non-small cell lung cancer.	Inagaki N	血液呼吸器膠原病感染症内科
6	PLoS ONE9(3):Article No. e92888 2014/03	Inhibition of Calcineurin Abrogates While Inhibition of mTOR Promotes Regulatory T Cell Expansion and Graft-Versus-Host Disease Protection by IL-2 in Allogeneic Bone Marrow Transplantation.	Satake A	血液呼吸器膠原病感染症内科
7	Circulation journal77(7):1681-1683 2013/07	Can We Predict the Outcome of Catheter Ablation for Atrial Fibrillation?: role of left atrial and appendage function.	Miyasaka Y	循環器内科
8	Digestion 88(4):217-221 2013/11	Refractoriness of Intestinal Behçet's Disease with Myelodysplastic Syndrome Involving Trisomy 8 to Medical Therapies - Our Case Experience and Review of the Literature.	Toyonaga T	消化器肝臓内科
9	Digestive Endoscopy 25(6):633 2013/11	Bilioportal fistula associated with pigtail biliary drainage tube use.	Horitani S	消化器肝臓内科
10	Journal of gastroenterology 48(6):751-761 2013/06	The similarity of Type 1 autoimmune pancreatitis to pancreatic ductal adenocarcinoma with significant IgG4-positive plasma cell infiltration.	Fukui Y	消化器肝臓内科
11	Nature Cell Biology 15(5):511-518 2013/05	Identification of stem cells that maintain and regenerate lingual keratinized epithelial cells.	Tanaka T	消化器肝臓内科
12	PLoS ONE 8(9):Article No. e73874 2013/9/1	Antigen-specific suppression and immunological synapse formation by regulatory T cells require the mst1 kinase.	Tomiya T	消化器肝臓内科
13	Pancreatology 13(3):230-237 2013/5/1	A proposal of a diagnostic algorithm with validation of International Consensus Diagnostic Criteria for autoimmune pancreatitis in a Japanese cohort.	Sumimoto K	消化器肝臓内科
14	World journal of gastroenterology 19(27):4427-4431 2013/07	Intrahepatic cholangiocarcinoma diagnosed via endoscopic retrograde cholangiopancreatography with a short double-balloon enteroscope.	Ikeura T	消化器肝臓内科
15	United European gastroenterology journal 1(4):276-284 2013/8/1	Application of international consensus diagnostic criteria to an Italian series of autoimmune pancreatitis	Tsukasa Ikeura	消化器肝臓内科
16	Digestive Endoscopy 26(Suppl.1):70-78 2014/01	Endoscopic approaches for pancreatobiliary diseases in patients with altered gastrointestinal anatomy.	Shimatani M	消化器肝臓内科

(注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先を全て記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件以上未済の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

## 2. 論文発表等の実績

番号	雑誌名	題名	発表者氏名	発表者の所属
17	JSM Gastroenterology and Hepatology 2(2):1013 2014/01	Sensory Nerves and Chronic Pancreatitis	Ikeura T	消化器肝臓内科
18	Acta paediatrica 102(8):e347-e352 2013/08	B-type natriuretic peptide for assessment of hemodynamically significant patent ductus arteriosus in premature infants.	Mine K	小児科
19	American journal of nephrology 38(6):483-488 2013/09	Novel Use of Rituximab for Steroid-Dependent Nephrotic Syndrome in Children.	Kimata T	小児科
20	BMC nephrology 14:166 2013/10/1	A young child with pseudohypoaldosteronism type II by a mutation of Cullin 3.	Tsuji S	小児科
21	BioMed research international 2013:Article No. 327903 2013/11	Postmortem Computed Tomography Imaging in the Investigation of Nontraumatic Death in Infants and Children.	Noda Y	小児科
22	Journal of pediatric hematology/oncology 35(7):E317-E319 2013/10	A Child With Epstein-Barr Virus-associated Hemophagocytic Lymphohistiocytosis Complicated by Coronary Artery Lesion Mimicking Kawasaki Disease	Kato S	小児科
23	The Journal of pediatrics 162(6):1205-1209 2013/06	N-Terminal Pro-Brain Natriuretic Peptide and Risk of Coronary Artery Lesions and Resistance to Intravenous Immunoglobulin in Kawasaki Disease	Yoshimura K	小児科
24	Pediatric nephrology 28(4):667-669 2013/04	Close association between proteinuria and regulatory T cells in patients with idiopathic nephrotic syndrome.	Kimata T	小児科
25	Pediatrics international 55(3):e49-e51 2013/06	Significance of twinkling artifact on ultrasound in the diagnosis of cystine urolithiasis.	Fujii Y	小児科
26	The Tohoku journal of experimental medicine 231(4):251-255 2013/12	Voiding Cystourethrography Is Mandatory in Infants with Febrile Urinary Tract Infection.	Kimata T	小児科
27	The open rheumatology journal 19(7):22-25 2013/04	MEFV Variants in Patients with PFAPA Syndrome in Japan	Taniuchi S	小児科
28	Allergy, Asthma & Clinical Immunology 10(1):Article No.3 2014/01	New efficacy of LTRAs (montelukast sodium): it possibly prevents food-induced abdominal symptoms during oral immunotherapy	Takahashi M	小児科
29	J Pediatr 162(4):883 2013/04	oxygen delivery and apnea	nakashima J	小児科
30	Archives of orthopaedic and trauma surgery 133(12):1763-1770 2013/10	Subtrochanteric shortening osteotomy combined with cemented total hip arthroplasty for Crowe group IV hips.	Oe K	整形外科
31	European journal of endocrinology 169(2):203-209 2013/07	Possible involvement of matrix metalloproteinase-3 in the pathogenesis of macroprolactinaemia in some patients with rheumatoid arthritis.	Adachi T	整形外科
32	Journal of neurosurgery. Spine 18(6):545-552 2013/06	A less-invasive cervical laminoplasty for spondylotic myelopathy that preserves the semispinalis cervicis muscles and nuchal ligament.	Umeda M	整形外科

(注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先を全て記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件以上未済の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

## 2. 論文発表等の実績

番号	雑誌名	題名	発表者氏名	発表者の所属
33	Bio-medical materials and engineering 23(5):329-338 2013/01	Evaluation of the clinical performance of ultrahigh molecular weight polyethylene fiber cable using a dog osteosynthesis model.	Oe K	整形外科
34	Annals of plastic surgery 71(2):219-224 2013/08	Effects of Platelet-Rich Plasma on Proliferation and Myofibroblastic Differentiation in Human Dermal Fibroblasts.	Kushida S	形成外科
35	Journal of translational medicine 11(1):Article No.254 2013/10	Adipose-derived regenerative cell (ADRC)-enriched fat grafting: optimal cell concentration and effects on grafted fat characteristics.	Kakudo N	形成外科
36	Tissue engineering. Part A 19(17-18):1931-1940 2013/09	Novel Collagen/Gelatin Scaffold with Sustained Release of Basic Fibroblast Growth Factor: Clinical Trial for Chronic Skin Ulcers.	Morimoto N	形成外科
37	Annals of plastic surgery 72(1):84-88 2014/01	Immediate Evaluation of Neovascularization in a Grafted Bilayered Artificial Dermis Using Laser Doppler Imaging.	Morimoto N	形成外科
38	Asian journal of endoscopic surgery 6(2):68-77 2013/05	Recent advances in urologic laparoscopic surgeries: laparoendoscopic single-site surgery, natural orifice transluminal endoscopic surgery, robotics and navigation.	Matsuda T	腎泌尿器外科
39	Surgical endoscopy 27(6):2193-2200 2013/06	Analysis of laparoscopic dissection skill by instrument tip force measurement.	Yoshida K	腎泌尿器外科
40	Clinical ophthalmology 7:1581-1585 2013/08	Obvious optic disc swelling in a patient with cryopyrin-associated periodic syndrome.	Kawai M	眼科
41	International ophthalmology 33(4):425-428 2013/08	A long-term follow-up of peripapillary retinoschisis with optic disc hypoplasia.	Yoshikawa T	眼科
42	The Journal of pharmacology and experimental therapeutics 345(1):76-84 2013/04	A novel macrolide solithromycin exerts superior anti-inflammatory effect via NF- $\kappa$ B Inhibition	Kobayashi Y	耳鼻咽喉科
43	Hearing research 309:124-135 2014/03	Connexin 26 null mice exhibit spiral ganglion degeneration that can be blocked by BDNF gene therapy.	Takada Y	耳鼻咽喉科
44	Clinical radiology 68(4):346-351 2013/04	CO(2) microbubble contrast enhancement in x-ray angiography.	Kariya S	放射線科
45	Clinical radiology 68(11):1180 2013/07	Re: CO2 microbubble contrast enhancement in x-ray angiography. A reply.	Kariya S	放射線科
46	Internal medicine 52(7):827-828 2013/04	Intussusception Caused by an Ileocecal Lymphoma Disclosed on 18F-FDG-PET/CT.	Ha-Kawa S	放射線科
47	International journal of radiation oncology, biology, physics 23(2):110-114 2014/03	Direct puncture embolization using N-butyl cyanoacrylate for a hepatic artery pseudoaneurysm.	Yoshida R	放射線科
48	European journal of obstetrics, gynecology, and reproductive biology 168(1):95-101 2013/05	Divergent regulation of angiopoietin-1, angiopoietin-2, and vascular endothelial growth factor by hypoxia and female sex steroids in human endometrial stromal cells.	Tsuzuki T	産婦人科

(注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先を全て記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件以上未済の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

## 2. 論文発表等の実績

番号	雑誌名	題名	発表者氏名	発表者の所属
49	産婦人科の進歩 65(3):268-276 2013/08	Herlyn-Werner-Wunderlich syndrome with rotated double vaginae: a case report	Yoshida A	産婦人科
50	Fertility and sterility 99(1):248-255.e2 2013/01	Progesterin-induced heart and neural crest derivatives expressed transcript 2 is associated with fibulin-1 expression in human endometrial stromal cells.	Cho H,	産婦人科
51	Immunopharmacology and immunotoxicology 35(5):558-566 2013/08	Suppression of phagosome proteolysis and Matrigel migration with the $\alpha 2$ -adrenergic receptor agonist dexmedetomidine in murine dendritic cells.	Ueshima H	麻酔科
52	Journal of anesthesia 27(4):541-549 2013/08	An in-hospital mortality equation for mechanically ventilated patients in intensive care units.	Umegaki T	麻酔科
53	Journal of immunotoxicology 10(3):262-269 2013/07	Intravenous anesthetic propofol suppresses leukotriene production in murine dendritic cells.	Inada T	麻酔科
54	Journal of intensive care 1:4 2013/04	Efficacy of single-dose intravenous immunoglobulin administration for severe sepsis and septic shock	Hamano N	麻酔科
55	Journal of anesthesia Feb 20. [Epub ahead of print] 2014/02	Impact of steroid medication before hospital admission on barotrauma in mechanically ventilated patients with acute respiratory distress syndrome in intensive care units.	Umegaki T	麻酔科
56	Vascular health and risk management 9:265-272 2013/05	Validation of Omron RS8, RS6, and RS3 home blood pressure monitoring devices, in accordance with the European Society of Hypertension International Protocol revision 2010.	Takahashi H	臨床検査医学科
57	Critical Care 17(4):Article No. R178 2013/08	Impact on survival of whole-body computed tomography before emergency bleeding control in patients with severe blunt trauma	Daiki wada	救急医学科
58	Acta neurologica Scandinavica Acta neurologica Scandinavica 2013/09	Levodopa challenge test and (123) I-metaiodobenzylguanidine scintigraphy for diagnosing Parkinson's disease.	Asayama S	神経内科
59	Neuro-degenerative Diseases 11(4):182-193 2013/07	Activation of Transforming Growth Factor- $\beta$ / Smad Signaling Reduces Aggregate Formation of Mislocalized TAR DNA-Binding Protein-43.	Nakamura M	神経内科
60	Neurology and Clinical Neuroscience 1(3):114- 115 2013/05	Case of acquired idiopathic cold-induced hyperhidrosis	Tsuge A	神経内科
61	Neuropathology 34(1):58-63 2014/02	An autopsy case of sporadic amyotrophic lateral sclerosis associated with the I113T SOD1 mutation.	Nakamura S	神経内科
62	American journal of surgery 206(2):202-209 2013/08	Perioperative exercise for chronic liver injury patients with hepatocellular carcinoma undergoing hepatectomy.	Kaibori M	外科
63	BMC gastroenterology 13(1):119 2013/07	Assessment of preoperative exercise capacity in hepatocellular carcinoma patients with chronic liver injury undergoing hepatectomy.	Kaibori M	外科
64	Hepatology research 43(7):775-784 2013/07	Fluvastatin inhibits the induction of inducible nitric oxide synthase, an inflammatory biomarker, in hepatocytes.	Tokuhara K	外科

(注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先を全て記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件以上未済の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

## 2. 論文発表等の実績

番号	雑誌名	題名	発表者氏名	発表者の所属
65	JOP : Journal of the pancreas 14(6):664-668 2013/11	Laparoscopic distal pancreatectomy for a pancreatic lymphoepithelial cyst: case report and review of literature.	Yanagimoto H	外科
66	Journal of gastroenterology 48(6):751-761 2013/06	The similarity of Type 1 autoimmune pancreatitis to pancreatic ductal adenocarcinoma with significant IgG4-positive plasma cell infiltration.	Fukui Y	外科
67	Journal of gastrointestinal surgery 17(8):1422-1428 2013/06	Novel Liver Visualization and Surgical Simulation System.	Kaibori M	外科
68	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences 20(6):590-600 2013/08	Role of adjuvant surgery for patients with initially unresectable pancreatic cancer with a long-term favorable response to non-surgical anti-cancer treatments: results of a project study for pancreatic surgery by the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pa	Satoi S	外科
69	Surgery 154(5):1046-1052 2013/11	A prospective randomized controlled trial of hemostasis with a bipolar sealer during hepatic transection for liver resection.	Kaibori M	外科
70	World journal of surgery 37(4):820-828 2013/04	Clinicopathological Features of Recurrence in Patients After 10-year Disease-free Survival Following Curative Hepatic Resection of Hepatocellular Carcinoma.	Kaibori M	外科
71	The American surgeon 80(1):36-42 2014/01	Clinical impact of preoperative cholangitis after biliary drainage in patients who undergo pancreaticoduodenectomy on postoperative pancreatic fistula.	Yanagimoto H	外科
72	Digestive diseases and sciences 59(7):1484-1489 2014/01	Bone Marrow Cells Enhance Liver Regeneration After Massive Hepatectomy in Mice.	Kaibori M	外科
73	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences 21(1):72-77 2014/01	Less morbidity after introduction of a new departmental policy for patients who undergo open distal pancreatectomy.	Yui R	外科
74	Journal of traditional medicines 30(5-6):221-228 2014/03	Sorafenib alone versus a combination of sorafenib and ninjin'yoeito for the treatment of patients with advanced hepatocellular carcinoma: a retrospective study and pharmacological study in rats.	Kaibori M	外科
75	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences 20(3):271-278 2013/03	The clinical role of critical pathway implementation for pancreaticoduodenectomy in 179 patients.	Yamaki S	外科
76	Interactive cardiovascular and thoracic surgery 16(2):186-192 2013/02	Three-step management of pneumothorax: time for a re-think on initial management.	Kaneda H	胸部心臓血管外科
77	The Journal of dermatology 40(7):558-561 2013/07	Case of diffuse cutaneous systemic sclerosis with anti-Ku and anti-centromere antibodies.	Ohashi S	皮膚科
78	Rheumatology 52(9):1658-1666 2013/05	Elevated serum BAFF levels in patients with sarcoidosis: association with disease activity.	Ueda I	皮膚科

小計  
14合計  
78

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先を全て記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件以上未済の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
手順書の主な内容 ○申請手続き及び判定の通知 ○研究の実施及び報告 ○有害事象の報告 ○健康被害に対する保障 ○実施制限及び再審査 ○公開	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(25年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 産学連携活動に伴い発生する利益相反を適切にマネジメントすることに関し必要な事項を定めることにより、本法人及び教職員等の社会的信頼を確保するとともに、もって教育、研究及び社会への貢献を継続的かつ適切に遂行することを目的としている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(平成 25 年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 医学倫理審査講習会「臨床研究に関する倫理」	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(平成 25 年度実績)において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

多くの診療各科ではその所属する学会が定める専門医を目指して研修が行われますが、本院では研修の年ごとの具体的目標と研修計画が設定されています。また、研修を円滑に進捗させるため研修進捗状況の把握、評価の上、問題があれば改善を勧告する後期研修システムを備えています。

また、手術支援ロボット ダ・ヴィンチSiの導入など、高度かつ先端的な医療に関する研修をおこなっています。

平成25年4月には、本院に直結する新学舎がオープンし、最新の研究室、基本的な医療技術及び医療実践能力の向上を目的としたシュミレーションセンターや、電子ジャーナルを取り入れた図書館などを備え研修を最高レベルで一貫して行える体制を整えています。

2 研修の実績

研修医の人数	84.7人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
野村 昌作	血液呼吸器膠原病感染症内科	診療部長・主任教授	33年	
塩島 一郎	循環器内分泌代謝内科	診療部長・主任教授	28年	
岡崎 和一	消化器肝臓内科	診療部長・主任教授	36年	
福永 幹彦	心療内科	診療部長・主任教授	29年	
日下 博文	神経内科	診療部長・主任教授	37年	
奥川 学	精神神経科	診療科長・准教授	21年	
金子 一成	小児科	診療部長・主任教授	30年	
権 雅憲	外科	診療部長・主任教授	33年	
湊 直樹	胸部心臓血管外科	診療部長・主任教授	33年	
浅井 昭雄	脳神経外科	診療部長・主任教授	33年	
飯田 寛和	整形外科	診療部長・主任教授	40年	
長谷 公隆	リハビリテーション科	診療科長・診療教授	29年	
楠本 健司	形成外科	診療部長・主任教授	34年	
岡本 祐之	皮膚科	診療部長・主任教授	36年	
松田 公志	腎泌尿器外科	診療部長・主任教授	36年	
高橋 寛二	眼科	診療部長・主任教授	30年	
友田 幸一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	診療部長・主任教授	37年	
谷川 昇	放射線科	診療部長・主任教授	29年	
神崎 秀陽	産婦人科	診療部長・主任教授	42年	
新宮 興	麻酔科	診療部長・主任教授	41年	
高橋 伯夫	臨床検査医学科	診療部長・主任教授	42年	
植村 芳子	病理診断科	診療部長・診療教授	33年	
鋤方 安行	救急医学科	診療部長・主任教授	31年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容：「臨床検査セミナー」</p> <p>①IS015189について：国際規格IS015189取得に係る検査結果の質管理、正しい検査結果を出すための能力や方法。</p> <p>②HIT抗体について：ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)検査値の解釈について</p> <p>・研修の期間・実施回数：平成25年10月1日・1回</p> <p>・研修の参加人数：看護師42名 臨床検査技師38名</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<p>・研修の主な内容</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p>

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告(平成25年度実績)においては、平成二十六年四月以降の実績(計画)を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかにすること)。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 澤田 敏
管理担当者氏名	事務部長 川村 元伸、看護部長 安田 照美、薬剤部長 廣田 育彦

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		管理課、各診療科、薬剤部、手術部、各病棟、臨床検査部、病歴情報課、地域医療連携部	<ul style="list-style-type: none"> <li>保管部署で管理</li> <li>患者データの抽出は、所定の抽出依頼書に所属部門長の承認を受けた上で医療情報部長へ申請を行う。医療情報部長は利用目的を審査の上患者データの抽出を行う。依頼者は患者データの利用が完了した際には、速やかに依頼者の責任のもと患者データを削除する。</li> </ul>
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	管理課	/
	高度の医療の提供の実績	各診療科	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科	
	高度の医療の研修の実績	各診療科	
	閲覧実績	病歴情報課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携部	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十第一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有	/
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	31回	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	25回	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	有	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (3名)	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (5名)	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保	有	

	項	状況		
			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	有	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	有 (13回/年)	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	有 (11回/年)	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	有	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	有	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	有	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	有	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	有248回	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	有	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	有	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 澤田 敏	
閲覧担当者氏名	管理課長 杉上 弘之、医事課長 山本 和彦、病歴情報課長 田中 裕子	
閲覧の求めに応じる場所		
閲覧の手続の概要 ・ 閲覧申請書を記入の上、申請窓口である管理課へ提出する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	㊦・無																								
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 医療安全管理のための基本方針</li><li>2) 医療安全管理のための委員会その他の組織に関する規程</li><li>3) 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針</li><li>4) 医療事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li><li>5) 医療事故発生時の対応に関する基本方針</li><li>6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む）</li><li>7) 患者からの相談への対応に関する基本方針</li><li>8) その他医療安全の推進のための必要な基本方針</li></ol>																									
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 31 回																								
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 医療安全管理対策委員会（12回） 医療安全に関する全体の統括を行い、医療事故防止の検討と実行を行う。</li><li>2) 医療事故対応委員会（8回） 医療にかかる事故が発生した場合に医療事故対応方針等を緊急に審議し、迅速に対応し処理することを目的とする。</li><li>3) セーフティマネージャー委員会（11回） 医療安全管理部と連携して、インシデント事例の把握と改善策を検討し、それらを職員に周知徹底する。</li></ol>																									
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 25 回																								
<p>・ 研修の主な内容：</p> <table border="0"><tr><td>○減らそう！！コミュニケーションエラー</td><td>○みんなで取り組む医療安全</td></tr><tr><td>○刺股、護身術講習会</td><td>○危ない！異型輸血 危険が潜む間違った輸血の取り扱い</td></tr><tr><td>○ここがポイント！インフォームド・コンセント</td><td>○転倒転落</td></tr><tr><td>○検査データの読み方</td><td>○正しい薬の取り扱い 危険が潜んでいる間違った薬の取り扱い</td></tr><tr><td>○チーム力を高めよう！チームの鎖</td><td>○診療録監査と医療安全（DVD上映会）</td></tr><tr><td>○自殺リスク予防について</td><td>○医療コミュニケーションの本質-患者トラブルの予防のために-</td></tr><tr><td>○技能を高めよう～ME機器アラームとその対応～</td><td>○医療安全と診療録の充実</td></tr><tr><td>○診療録監査と医療安全</td><td>○なぜ人はうっかりミスをするのか</td></tr><tr><td>○災害医療研修</td><td>○なぜ起こる、患者誤認 あなた本当に確認されています！？</td></tr><tr><td>○医療安全、感染なんでもQ&amp;A</td><td>○薬剤インシデントと薬剤師による疑義照会 最近の糖尿病薬物療法</td></tr><tr><td>○臨床検査の品質保証</td><td>○医療安全管理部の取り組みと評価</td></tr><tr><td>○苦情と対応～対応に問題ありませんか？～</td><td>○モデル事業報告会（よりよい医療のために）</td></tr></table>		○減らそう！！コミュニケーションエラー	○みんなで取り組む医療安全	○刺股、護身術講習会	○危ない！異型輸血 危険が潜む間違った輸血の取り扱い	○ここがポイント！インフォームド・コンセント	○転倒転落	○検査データの読み方	○正しい薬の取り扱い 危険が潜んでいる間違った薬の取り扱い	○チーム力を高めよう！チームの鎖	○診療録監査と医療安全（DVD上映会）	○自殺リスク予防について	○医療コミュニケーションの本質-患者トラブルの予防のために-	○技能を高めよう～ME機器アラームとその対応～	○医療安全と診療録の充実	○診療録監査と医療安全	○なぜ人はうっかりミスをするのか	○災害医療研修	○なぜ起こる、患者誤認 あなた本当に確認されています！？	○医療安全、感染なんでもQ&A	○薬剤インシデントと薬剤師による疑義照会 最近の糖尿病薬物療法	○臨床検査の品質保証	○医療安全管理部の取り組みと評価	○苦情と対応～対応に問題ありませんか？～	○モデル事業報告会（よりよい医療のために）
○減らそう！！コミュニケーションエラー	○みんなで取り組む医療安全																								
○刺股、護身術講習会	○危ない！異型輸血 危険が潜む間違った輸血の取り扱い																								
○ここがポイント！インフォームド・コンセント	○転倒転落																								
○検査データの読み方	○正しい薬の取り扱い 危険が潜んでいる間違った薬の取り扱い																								
○チーム力を高めよう！チームの鎖	○診療録監査と医療安全（DVD上映会）																								
○自殺リスク予防について	○医療コミュニケーションの本質-患者トラブルの予防のために-																								
○技能を高めよう～ME機器アラームとその対応～	○医療安全と診療録の充実																								
○診療録監査と医療安全	○なぜ人はうっかりミスをするのか																								
○災害医療研修	○なぜ起こる、患者誤認 あなた本当に確認されています！？																								
○医療安全、感染なんでもQ&A	○薬剤インシデントと薬剤師による疑義照会 最近の糖尿病薬物療法																								
○臨床検査の品質保証	○医療安全管理部の取り組みと評価																								
○苦情と対応～対応に問題ありませんか？～	○モデル事業報告会（よりよい医療のために）																								
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況																									
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（㊦・無）</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 電子化入力運用を行っており、第一報は全職員、第二報通知は、セーフティマネージャーがそれぞれ入力を行っている。</li><li>2) 事故報告等の目的は、「個人を罰する事ではなく事故の再発防止に活用する事である」と定めている。</li><li>3) 報告すべき事項は、療養指導から院内給食に関するものまで29項目である。</li><li>4) 報告先は、セーフティマネージャー、所属部門の部長を経て、医療安全管理部、病院長である。緊急を要する場合は直接病院長へ報告し指示を受けて対処する。</li><li>5) 医療安全管理部は、報告を受けて速やかに内容を把握し、当該のセーフティマネージャーと分析し、対策を講じる。</li></ol> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>&lt;安全研修&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 医療安全研修ならびにDVD上映会</li><li>2) セーフティマネージャー会研修</li><li>3) 技術教育（超音波装置を使用した中心静脈穿刺について、刺股警戒杖の取扱い）</li></ol>																									

<p>4) 中途入職者への医療安全に関するオリエンテーション  5) セーフティマネージャー会への研修医の出席  6) 「マンスリーレポート」、「医療安全情報」  &lt;情報システムの活用&gt;  1) ラーニングシステムによる講演会の配信  2) ホームページの掲載  &lt;安全巡回&gt;  1) テーマに沿った計画的な医療安全管理者による巡回  2) 医療事故発生時、発生部署、関連部署へのラウンド  3) 私立医科大学病院相互ラウンド  &lt;改善の為に取り組み&gt;  1) 医療安全管理マニュアル一部改訂した。  2) 医療安全講習会を計画的に行い、寸劇やビデオを取り入れ客観的に医療安全が伝わるようにしている。  3) 医療事故防止策は、セーフティマネージャーが中心となり、時系列と必要に応じてRCAにて分析し、背景要因を明らかにすることで立案している。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	㊦ ( 3 名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	㊦ ( 5 名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	㊦ ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任 ( 7 ) 名 兼任 ( 9 ) 名</li> <li>・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 安全管理部門の業務に関する企画立案及び評価を行う。</li> <li>2) 定期的に院内を巡回し各部門における医療安全対策の実施状況を把握・分析し、医療安全確保のために必要な業務改善等の具体的な対策を推進する。</li> <li>3) 各部門における医療事故防止担当者への支援を行う。</li> <li>4) 医療安全対策の体制確保のための各部門との調整を行う。</li> <li>5) 医療安全対策に係る体制を確保するための職員研修の企画・実施をする。</li> <li>6) 相談窓口等の担当者と密接な連携を図り、医療安全対策に係る患者・家族の相談に適切に応じる体制を支援する。</li> </ol> </li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	㊦ ・ 無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	㊦・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>I 病院感染対策に関する基本的な考え II 感染対策委員会の設置 III 病院感染対策マニュアル IV 感染症の報告 V 病院感染発生時の対応 VI 職員研修の基本方針 VII 患者への指針の公開</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 13 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>○MRSAおよび多剤耐性菌の検出状況把握と対策 ○抗菌薬の使用状況調査と感受性の推移調査 ○抗菌薬使用報告書、TDM等の抗菌薬適正使用状況調査 ○院内感染発症時の対応、対策 ○感染対策研修会の企画および開催 ○院内ラウンド・サーベイランスの実施 ○血液培養陽性症例ラウンドの実施 ○針刺し事故の発生状況と事故防止対策の検討 ○感染防止対策地域連携、合同カンファレンスの報告 ○新型インフルエンザ等の対策</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 12 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○インフルエンザ対策と最新情報 ○HIV/AIDS研修 基礎編 ○標準予防策について、針刺し・血液暴露防止、インフルエンザ診療、H7N9感染者の現状と対応 ○納得！微生物検査データの見方と感染対策での活用法 ○本学3病院で改訂した薬剤、消毒薬使用期限の目安、医療廃棄物取扱いのきまり、ライン側注時 注意点、ウイルス抗体価検査とワクチン接種の必要性 ○正しい手指消毒の方法とそのタイミング、安全によく効くMRSA薬の使い方、この時期の食中毒対策 ○医療安全、感染なんでもQ&amp;A ○気道を侵入門戸とする感染症：結核早期発見と院内インフルエンザ対策、細菌情報のとりかた、 血液感染対策ライン管理 ○緑膿菌POT解析による気管支内視鏡関連感染の制圧事例、ノロウイルス感染について ○結核の早期診断とインフルエンザ対策、ホームページの有効活用、ノロウイルス対策 ○病院感染対策の重要性～新聞報道事例を中心に～ ○医療安全部・感染制御部合同研修会 耐性菌の動向、抗菌薬適正使用への取組、手指消毒剤使用量 の推移、今シーズンのインフルエンザ流行状況</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (㊦・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>病棟ラウンド (ICTラウンド内) 時の監査内容のフィードバック 感染対策研修会の開催 (本講演10回以上) 加えてDVD上映 血液培養陽性例に対する即日介入 広域抗菌薬使用患者に対する監視と介入 (薬剤師が主)</p>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： 正しい薬の取り扱い～危険が潜んでいる間違っった薬の取扱い～ 最近の糖尿病薬物療法	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 ( ☑・無 ) ・ 業務の主な内容： 医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への 医薬品の供給、外来患者への医薬品使用、病棟における医薬品の管理、入院患者への 医薬品使用、医薬品情報の収集・管理・提供、持参薬管理に関する事項、医薬品の 安全使用に係る情報の取扱いに関する事項、他施設との連携に関する事項。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( ☑・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 厚生労働省から発出される医薬品・医療機器安全性情報、緊急安全性情報、製薬企業から 発出される安全性速報、適正使用情報、添付文書改訂情報等の国内情報に加え、海外規制 機関から発出される医薬品安全情報等の収集を行い、院内イントラネットの電子メール 使用者すべてに電子メールを発信し、知り得た情報の周知を図っている。	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年248回
<p>・ 研修の主な内容：主要7品目、新規購入機器・物品についての研修</p> <p>人工呼吸器、人工心肺、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、da Vinciサージカルシステム、移動型デジタル式X線透視装置、尿検査搬送システム、頭頸部用3D-CT画像解析システム、デンタルX線撮影装置、歯科用ユニット、電動式骨手術器、ホルマリンガス滅菌器、歯科技工用成型器、歯科用コンプレッサ、歯科用吸引装置、移動式室内拡散エア吸引装置、可搬式歯科用ユニット（一体型・分離型）、歯科技工用吸引ポンプ、歯科用パノラマX線撮影装置、高周波手術器、マンモトームエリート、電気メス、ワイヤードライバー、エキシマライト光線療法機器、シリンジポンプ、送信機、自動免疫組織化学染色システム、携帯型内視鏡、術中神経機能モニタリング装置、大動脈バルーンポンプ、経皮ビルビリルン濃度測定器使用、他覚的聴力検査装置、分娩監視装置、電気周術器、ベッドサイドモニタ、新生児用AABR聴力検査装置、検診台、マルチカラー स्कаныレーザ光凝固装置、筋電計、新生児用ファイバー、ハイビジョン内視鏡システム、スケール付ICUベッド、誘発筋電図装置、X線骨密度測定装置</p> <p>取り扱い、操作、安全使用方法の研修会。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・無 )</p> <p>・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、呼吸補助器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、麻酔器、電気手術器、輸液ポンプ、ペースメーカー の医療機器について保守点検計画を策定し、マニュアルに基づきMEセンター及びメーカーによる保守点検を実施した。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： メーカーや厚生労働省から発信される医療機器安全情報を医療機器安全管理担当者、株式会社日本ステリが収集する。当院に設置（使用）や関係しているものに医用工学センター及び医療機器管理責任者が書面にて連絡をうけ、内容を吟味検討した上で、関連部署職員に向けて書面やメールで情報発信を行っている。また、医用工学センターHP上で医療機器安全情報もupしている。</p>	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 国際標準化機構 (ISO15189認定) 平成25年8月15日認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 情報発信の方法：当院ホームページ 内容等の概要：医療圏における基幹病院の一つとして、最先端医療、高度医療を行っており、患者さんが安心できる安全で最新の医療の提供に努め、全ての人に平等で開かれた大学病院としての社会的責務を果たしている。 また、災害拠点病院・がん診療連携拠点病院・高度救命救急センターの指定を受けており、診療の多様化にも対応し、広く地域医療機関との連携を図り医療圏全体の充実に貢献している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 救命救急センターでは、救急医学科及び関連各科の協力のもとに、第二次救急病院及び消防署等から搬入される重篤救急患者の医療を確保し、併せて卒前及び卒後の救急医学教育を行っている。 脳卒中センターでは脳神経外科、神経内科、救急医学科、リハビリテーション科及び関連診療	

科が協力して、超急性期に対する血栓溶解療法（t-PA静注療法）や脳血管内治療など、最新かつ質の高い脳卒中治療を提供している。

がん治療・緩和センターは、関連診療科と協力して、がんの効果的な治療と化学療法の一元管理を行うことにより、医療の質を高め、より安全な治療を行うとともに業務の効率化を図り、北河内二次医療圏における「がん診療連携拠点病院」としての機能の発揮に努めている。

内視鏡センターでは消化器肝臓内科、消化管外科、呼吸器内科、呼吸器外科及び関連各科が協力して、消化器及び呼吸器に関連する消化器内視鏡、気管支内視鏡検査及び内視鏡検査及び内視鏡的治療を積極的に行っている。